

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	人間の尊厳と自立	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	原田 由美子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 人間の理解を基礎として尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習をする。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳の意義と利用者主体について理解する。 ・人権思想を学び、権利侵害と権利擁護について理解する。 ・自立について理解する。 ・尊厳を守る介護と自立支援について理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人間の理解①	11	人権・福祉理念の変遷④
2	人間の理解②	12	人権尊重
3	人間の理解③	13	権利擁護①
4	人間の尊厳	14	権利擁護②
5	利用者主体	15	自立の概念の多様性
6	人権思想	16	自立とは
7	日本の諸規定	17	自立支援
8	人権・福祉理念の変遷①	18	尊厳の保持と自立支援
9	人権・福祉理念の変遷②	19	演習
10	人権・福祉理念の変遷③	20	まとめ

講義方法 座学・演習（グループワーク）
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
成績評価方法 期末試験、授業態度
教科書 最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 （中央法規出版） 第1章
参考書 福祉小六法2019 （中央法規出版）

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	社会の理解 II	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	原田 由美子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 介護保険制度及び障害者自立支援制度を学ぶ。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制度の仕組みについて理解する。 ・ 介護保険制度のもとで専門職の役割について理解する。 ・ 障害者自立支援制度の成り立ちと、その目的や特徴について理解する。 ・ 障害者自立支援制度のしくみについて理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	介護保険制度創設の背景	11	障害者自立支援法制定までの経緯及び関係法律
2	介護保険制度の理念と目的	12	障害者自立支援法
3	介護保険制度の動向	13	障害者総合支援法制定の経緯・障害者総合支援法の特徴
4	保険者・被保険者・保険料・利用者負担・財源	14	障害福祉サービスの種類・内容
5	保険給付	15	障害福祉サービスの対象者・利用者負担
6	要介護認定・介護認定審査会	16	障害福祉サービス利用の流れ・手続き
7	地域支援事業	17	障害者総合支援法と介護保険制度の関係
8	地域包括支援センター・地域包括ケアシステム	18	国・都道府県・市町村・国保連・指定サービス事業者の役割
9	国・都道府県・市町村・国保連の役割	19	地域生活支援事業・地域相談支援事業・計画相談支援とう
10	まとめテスト	20	まとめテスト

講義方法
座学及びグループワーク（演習）
講義で使用する機器・教材
i P a d 必須
履修上の注意事項
質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
成績評価方法
期末試験、小テスト、授業態度
教科書
社会と制度の理解（中央法規出版） 第3～4章
参考書
福祉小六法（中央法規出版） 国民の福祉と介護の動向 その他各自用意
予習復習のアドバイス
制度は全体を把握することで理解が深まる。各制度や法を覚えるだけでなく、関連法規についても学習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	生活技術	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	野呂 勇介	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 生活に必要な基礎的な技術を身につけ、生活するための能力を養うことができる。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・調理に基本を理解し、簡単な調理をすることができる。 ・洗濯の仕方や衣類管理について理解することができる。 ・生活にかかわる社会的規則についてを理解することができる。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション		11	調理実習(応用)	
2	公共料金の理解		12	調理実習(対象事例)	
3	食計画についての理解		13	調理実習(対象事例)	
4	調理方法の理解(食材)		14	掃除の仕方	
5	調理方法の理解(調理器具)		15	掃除の仕方	
6	調理実習(基礎)		16	洗濯の仕方	
7	調理実習(基礎)		17	洗濯の仕方	
8	調理実習(応用)		18	衣類の管理	
9	調理実習(応用)		19	衣類の管理	
10	調理実習(応用)		20	まとめ	
講義方法 講義・演習					
講義で使用する機器・教材 生活用具全般（調理器具、洗濯用品等）					
履修上の注意事項 配布物の管理；ファイリングするなどし、授業時には持参する。 調理時には衛生面に留意し、身だしなみ等も整えて出席する。					
成績評価方法 筆記試験					
予習復習のアドバイス 技術を習得するために、家庭においても復習すること。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	情報処理学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	原田 由美子	単位時間数	60	単位数	2
講義目標	一般目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ パソコンを利用し、日常業務の問題解決の手法を修得する。 ・ パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。 				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報化社会の中で、パソコンを日常業務の道具として駆使できること。 ・ 最小限のアプリケーションソフトを使いこなし、情報処理能力を高めること。 ・ 文章処理、表計算、パワーポイントなどの一般的な操作ができること。 				

回数	授業内容	回数	授業内容
1	オリエンテーション	21	Excel・カンファレンスシート作成①
2	Word入門	22	Excel・カンファレンスシート作成②
3	Word・FAX送信票作成①	23	Excel・カンファレンスシート作成③
4	Word・FAX送信票作成②	24	Excel・カンファレンスシート作成④
5	Wordその他機能	25	Excel・カンファレンスシート作成⑤
6	Excel入門	26	Excel・カンファレンスシート作成⑥
7	Excel・議事録作成①	27	Excel・カンファレンスシート作成⑦
8	Excel・議事録作成②	28	Excel・カンファレンスシート作成⑧
9	Excel・議事録作成③	29	Word・事例抄録作成①
10	Excel・議事録作成④	30	Word・事例抄録作成②
11	Excel・議事録作成⑤	31	Word・事例抄録作成③
12	Excel・議事録作成⑥	32	Word・事例抄録作成④
13	Excel・議事録作成⑦	33	Word・事例抄録作成⑤
14	Excel・勤務表作成①	34	PowerPoint入門
15	Excel・勤務表作成②	35	PowerPoint・事例発表作成①
16	Excel・勤務表作成③	36	PowerPoint・事例発表作成②
17	Excel・勤務表作成④	37	PowerPoint・事例発表作成③
18	Excel・勤務表作成⑤	38	PowerPoint・事例発表作成④
19	Excel・勤務表作成⑥	39	PowerPoint・事例発表作成⑤
20	Excel・その他機能	40	まとめ

講義方法

- ・基礎から指導する、その後は各人の進捗に合わせて適切な実習を行う。
- ・その日の授業内容をプロジェクターにて告知し、わかりやすい授業とする。
- ・テキスト中心に、学生とコミュニケーションを取りながら楽しくマシン実習を行う。

講義で使用する機器・教材

- ・講義説明はプロジェクター使用

履修上の注意事項

- ・授業には休まず毎日出席すること、欠席は提出課題作成などの遅れとなる。
- ・履修单元ごとに課題提出がある。課題提出がされない場合は成績に影響する。
- ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋がります。
- ・テキストを参照しながら授業を進めるので、テキストは忘れないこと。

成績評価方法

- ・期限までの課題提出、授業態度

教科書

- ・「30時間でマスターOffice2016」(実教出版)

参考書**特になし。**

- ・別途プリント配布あり。

予習復習のアドバイス

- ・特に予習復習の必要はなし。
- ・課題作成の遅れは、授業の空きコマや放課後に各自マシンを使用し実習できる。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	介護の基本Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	原田 由美子	単位時間数	60	単位数	4
講義目標	一般目標 介護福祉の基本となる理念や地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習をする。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉士の機能と役割を理解する。 ・ 介護福祉士の倫理を理解する。 ・ 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション		21	介護福祉士の倫理③	
2	介護福祉士の活動の場と役割①		22	介護福祉士の倫理④	
3	介護福祉士の活動の場と役割②		23	日本介護福祉士会倫理綱領①	
4	介護福祉士の活動の場と役割③		24	日本介護福祉士会倫理綱領②	
5	介護福祉士の活動の場と役割④		25	日本介護福祉士会倫理綱領③	
6	社会福祉士及び介護福祉士法①		26	日本介護福祉士会倫理綱領④	
7	社会福祉士及び介護福祉士法②		27	まとめ	
8	社会福祉士及び介護福祉士法③		28	フォーマルサービス①	
9	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定①		29	フォーマルサービス②	
10	社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定②		30	フォーマルサービス③	
11	介護福祉専門職に求められる役割の拡大①		31	フォーマルサービス④	
12	介護福祉専門職に求められる役割の拡大②		32	インフォーマルサービス①	
13	介護福祉専門職に求められる役割の拡大②		33	インフォーマルサービス②	
14	チームリーダーとしての介護福祉士への期待①		34	インフォーマルサービス③	
15	チームリーダーとしての介護福祉士への期待②		35	地域連携①	
16	介護福祉士を支える団体①		36	地域連携②	
17	介護福祉士を支える団体②		37	地域連携③	
18	まとめ		38	地域連携④	
19	介護福祉士の倫理①		39	まとめ	
20	介護福祉士の倫理②		40	まとめ	

講義方法 座学・演習（グループワーク）
講義で使用する機器・教材 ipad必須
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
成績評価方法 期末試験、課題、授業態度
教科書 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ （中央法規出版） 第2、3章 最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ （中央法規出版） 第2章
参考書 福祉小六法2019 （中央法規出版）

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	介護の基本Ⅲ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/40
講師名	原田 由美子	単位時間数	30/60	単位数	4
講義目標	一般目標 ・介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、介護場面での事故および感染症対策の実際や具体的な手法を学ぶ。 ・介護職の健康管理の基礎知識と技術を学ぶ。				
	到達目標 ・介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解する。 ・介護場面での事故および感染症対策の実際や具体的な手法を理解する。 ・介護職の健康管理の基礎知識と技術を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	介護における安全確保のためのリスクマネジメント	11	感染対策の基礎知識
2	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み	12	感染症発生時の対応
3	生活の中のリスクと対策	13	介護という仕事の特徴
4	演習①	14	介護職の健康と介護の質
5	演習②	15	こころの健康管理
6	演習③	16	からだの健康管理
7	演習④	17	介護労働者の労働環境
8	生活の場での感染対策	18	労働環境と介護労働
9	高齢者介護施設と感染対策	19	演習⑤
10	感染対策とリスクマネジメント	20	介護福祉士を目指す皆さんへ

講義方法 座学及びグループワーク（演習）
講義で使用する機器・教材 i P a d 必須
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
成績評価方法 期末試験、小テスト、授業態度 ※介護の基本Ⅲの成績は野呂50% 原田50%としその合計で最終成績を決定する。
教科書 介護の基本Ⅱ(中央法規) 第4～終章

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	介護の基本Ⅲ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/40
講師名	野呂 勇介	単位時間数	30/60	単位数	4
講義目標	一般目標 介護実践における連携について学ぶ。				
	到達目標 ・他職種の役割を理解し、介護福祉士として多職種連携の重要性を理解する。 ・介護サービスにおける地域連携について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	11	発表資料作成②
2	多職種連携の意義と目的	12	発表資料作成③
3	協働職種の理解と連携のあり方	13	発表資料作成④
4	協働職種の理解と連携のあり方②	14	発表資料作成⑤
5	協働職種の理解と連携のあり方③	15	発表資料作成⑥
6	利用者を取り巻く多職種連携の実際	16	発表資料作成⑦
7	利用者を取り巻く多職種連携の実際②	17	発表
8	利用者を取り巻く多職種連携の実際③	18	発表
9	わたしの授業	19	発表
10	発表資料作成①	20	発表

講義方法 グループワークと演習を中心とした学習
講義で使用する機器・教材 i P a d 必須
履修上の注意事項 資料を各自の方法でまとめておき、授業時に活用すること。 課題提出については指定の方法を用い、期限を順守すること。期限を過ぎた場合は減点とする。
成績評価方法 期末試験50% 演習課題40% 授業態度等10% ※介護の基本Ⅲの成績は野呂50% 原田50%としその合計で最終成績を決定する。
教科書 介護の基本Ⅱ(中央法規)
予習復習のアドバイス ・介護の基本ⅠⅡの復習を行ったうえで履修すること。 ・介護に関する知識の統合が必要となる為、自身の課題を明確にしながら、随時修正を行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/40
講師名	原田 由美子	単位時間数	30/60	単位数	2
講義目標	一般目標 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習をする。				
	到達目標 ・介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・傾聴、受容、共感を理解する。 ・介護福祉職は家族と協働していく支援のパートナーであることを理解する。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション		11	目的別コミュニケーション②	
2	介護におけるコミュニケーションとは		12	集団におけるコミュニケーション①	
3	介護におけるコミュニケーションの対象		13	集団におけるコミュニケーション②	
4	援助関係とコミュニケーション		14	演習	
5	演習		15	家族との関係づくり	
6	コミュニケーション態度①		16	家族への助言・指導・調整①	
7	コミュニケーション態度②		17	家族への助言・指導・調整②	
8	コミュニケーションの基本①		18	家族関係と介護ストレスへの対応	
9	コミュニケーションの基本②		19	演習	
10	目的別コミュニケーション①		20	まとめ	
講義方法 座学・演習（グループワーク）					
講義で使用する機器・教材 ipad必須					
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。					
成績評価方法 期末試験、授業態度					
教科書 最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術（中央法規出版） 第1、2、4章					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	野呂 勇介	単位時間数	30	単位数	1
講義目標	一般目標 コミュニケーションの基礎的な知識を復習し、各障害特性をコミュニケーション技術に特化した視点で理解できる。また、実践できる。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携とチームコミュニケーションを習得する。 ・各障害特性について再学習し、コミュニケーション障害を理解する。 ・各障害特性に合わせたコミュニケーション技術を習得する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション / コミュニケーション障害の理解	11	コミュニケーション障害者への対応演習 (ロールプレイ)①
2	視覚障害体験による障害の理解	12	コミュニケーション障害者への対応演習 (ロールプレイ)②
3	視覚障害者の理解とコミュニケーション支援方法	13	コミュニケーション障害者への対応演習 (ロールプレイ)③
4	聴覚障害者の理解とコミュニケーション支援方法	14	コミュニケーション障害者への対応演習 (ロールプレイ)④
5	聴覚障害者の理解とコミュニケーション支援方法②	15	チームコミュニケーションの概要
6	構音障害者の理解とコミュニケーション支援方法	16	記録の管理
7	失語症の理解とコミュニケーション支援方法	17	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的
8	認知症の理解とコミュニケーション支援方法	18	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的②
9	認知症の理解とコミュニケーション支援方法②	19	会議の種類と運用
10	高次脳機能障害者の理解とコミュニケーション支援方法②	20	会議の種類と運用②

講義方法
グループワークを中心にした学習。
講義で使用する機器・教材
i P a d 必須
履修上の注意事項
遅刻・欠席がないことが望ましい。
成績評価方法
筆記試験80% 演習課題・授業態度等20%
教科書
コミュニケーション技術（中央法規）
予習復習のアドバイス
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術Ⅰで学んだことを復習したうえで講義に臨むこと。 ・他科目と連動する内容があるため、当科目だけで終結せずに関連付けする必要がある。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	生活支援技術Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	50/30
講師名	野呂 勇介	単位時間数	75/120	単位数	4
講義目標	一般目標 生活とは何かを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。生活全体を理解した上で、利用者の潜在能力を引き出し、どのように支援するところが適切かを考え、それを提供していく能力を身につける。自立支援の観点から、その知識・技術が展開できる能力を養うとともに、利用者の生活の質の向上を考えた援助技術を学ぶ。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援を理解し、そのあり方を考えることができる。 ・居住環境、衛生管理について理解し、その方法を習得する。 ・身じたくの介護についてその意義・目的を理解し、その方法と技術を習得することができる。 ・入浴の意義・目的を理解した上で、その介護方法について習得するとともに、それに伴う移動の技術を習得する。 ・口腔衛生について理解し、介助方法とその技術を習得する。 ・食事についてどのように支援すべきかその技術を習得する。 ・排泄についてどのように支援すべきかその技術を習得する。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	生活支援とは		18	身じたくの介助 実技試験②	
2	住まいの役割と機能		19	入浴・清潔の介護の意義と目的	
3	生活行為と生活空間		20	入浴介助①女性 / 全身清拭 男性	
4	生活環境と室内環境		21	入浴介助②女性 / 手浴 男性	
5	福祉用具の活用		22	入浴介助③女性 / 足浴 男性	
6	ボディメカニクスの理解		23	入浴介助①男性 / 全身清拭 女性	
7	寝具の衛生管理の技術①		24	入浴介助②男性 / 手浴 女性	
8	寝具の衛生管理の技術②		25	入浴介助③男性 / 足浴 女性	
9	寝具の衛生管理の技術③		26	入浴・清潔の介護まとめ(情報共有)	
10	寝具の衛生管理の技術④		27	食事の意義と目的、食事における福祉用具の理解	
11	寝具の衛生管理の技術⑤		28	食事介助の技法	
12	ベッドメイキング 実技試験		29	食事の介助 テーブル	
13	身じたくの意義と目的		30	食事の介助 ベッド上	
14	身じたくの介助 洗面・洗顔		31	食事の介助 応用①	
15	身じたくの介助 爪の手入れ		32	食事の介助 応用②	
16	身じたくの介助 口腔衛生		33	食事介助 実技試験①	
17	身じたくの介助 実技試験①		34	食事介助 実技試験②	

35	排泄の意義と目的	43	排泄の介助 紙オムツ使用者への介助③
36	排泄におけるアセスメント	44	排泄の介助 布オムツ使用者への介助①
37	失禁・便秘の理解	45	排泄の介助 布オムツ使用者への介助②
38	排泄の介助 トイレでの介助	46	排泄の介助 布オムツ使用者への介助③
39	排泄の介助 ポータブルトイレでの介助	47	排泄の介護 まとめ
40	排泄の介助 尿器・差し込み便器	48	排泄介助 実技試験①
41	排泄の介助 紙オムツ使用者への介助①	49	排泄介助 実技試験②
42	排泄の介助 紙オムツ使用者への介助②	50	まとめ

講義方法

テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。
各実習室を使用して実技演習を行う。

講義で使用する機器・教材

i P a d 必須

履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・教室及び各実習室を使用し、実際に演習を行う授業であるため、演習時には基本的に実習着（ユニフォーム）を着用することとなる。身だしなみを整え出席すること。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
- ・提出物の提出期限に注意すること。

成績評価方法

期末試験（筆記及び実技）

※野呂60%、三神40%としてその合計を最終評価とする。

教科書

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ（中央法規出版）

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。
- ・実技演習の時間は限られているため、各自復習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	生活支援技術Ⅲ (形態別介護)	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40/80
講師名	木田真千子	単位時間数	60/120	単位数	4
講義目標	一般目標 要介護者の状態に応じた生活支援技術を習得する。また、アセスメントの視点として活用することができる。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種障害の症状、特性を知る。 ・ 障害に対するソーシャルサポートを理解し、活用できる。 ・ 福祉住環境整備を含めた総合的な支援体制を理解する。 ・ 各種障害に応じた身体的、心理的支援ができる。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1章) 利用者の状態・状況に応じた生活技術とは	21	内部障害（呼吸器）に応じた介護
2	2章) 障害に応じた介護	22	内部障害（呼吸器）に応じた介護
3	視覚障害に応じた介護	23	内部障害（呼吸器）に応じた介護
4	視覚障害に応じた介護	24	内部障害（膀胱・直腸障害）に応じた介護
5	視覚障害に応じた介護	25	内部障害（膀胱・直腸障害）に応じた介護
6	聴覚障害に応じた介護	26	内部障害（膀胱・直腸障害）に応じた介護
7	聴覚障害に応じた介護	27	内部障害（肝臓）に応じた介護
8	聴覚障害に応じた介護	28	内部障害（肝臓）に応じた介護
9	重複障害に応じた介護	29	内部障害（肝臓）に応じた介護
10	重複障害に応じた介護	30	3章) 障害に応じた生活支援技術
11	重複障害に応じた介護	31	知的障害に応じた介護
12	運動機能障害に応じた介護	32	知的障害に応じた介護
13	運動機能障害に応じた介護	33	知的障害に応じた介護
14	運動機能障害に応じた介護	34	精神障害に応じた介護
15	内部障害（心臓）に応じた介護	35	精神障害に応じた介護
16	内部障害（心臓）に応じた介護	36	精神障害に応じた介護
17	内部障害（心臓）に応じた介護	37	高次脳機能障害に応じた介護
18	内部障害（腎臓）に応じた介護	38	高次脳機能障害に応じた介護
19	内部障害（腎臓）に応じた介護	39	高次脳機能障害に応じた介護
20	内部障害（腎臓）に応じた介護	40	発達障害に応じた介護

講義方法 座学・演習・グループワークを行う。
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 障害の理解・こころとからだのしくみと関連付けた学習を行うこと。
成績評価方法 レポート・期末試験
教科書 生活支援技術Ⅲ（中央法規） 参考書 適宜指示する。
予習復習のアドバイス 他科目との関連を持った自己学習を継続すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	生活支援技術Ⅲ (障害形態別介護)	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	15/80
講師名	木田 真千子	単位時間数	22.5/120	単位数	4
講義目標	一般目標 要介護者の状態に応じた生活支援技術を習得する。また、アセスメントの視点として活用することができる。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種障害の症状、特性を知る。 ・ 障害に対するソーシャルサポートを理解し、活用できる。 ・ 福祉住環境整備を含めた総合的な支援体制を理解する。 ・ 各種障害に応じた身体的、心理的支援ができる。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
41	発達障害に応じた介護		51	認知症介護における生活支援の展開	
42	発達障害に応じた介護		52	まとめ	
43	重症心身障害に応じた介護		53	まとめ	
44	重症心身障害に応じた介護		54	まとめ	
45	重症心身障害に応じた介護		55	まとめ	
46	4章) 認知症の人への介護				
47	認知症の人への介護				
48	認知症の人への介護				
49	認知症介護における生活支援の展開				
50	認知症介護における生活支援の展開				
講義方法 一般教室による講義を中心に、プリント等必要教材を用いて授業を展開する。グループワーク等の演習の機会を作り、考えを互いに共有し合う。					
履修上の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 配布資料等は毎回持参し、授業に活用していくこと。 ・ 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。 ・ 居眠りや欠席・遅刻は授業に影響することを自覚し、授業に集中出来るよう努めること。私語を控えること。 					
成績評価方法 期末試験					
教科書 生活支援技術Ⅲ（中央法規）					
参考書 適宜指示する。					
予習復習のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んでおく。 ・ 配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。 ・ 専門用語は早期に調べ、授業時に使用する用語の理解に努める。 					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	生活支援技術Ⅲ（家庭生活）	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	5/80
講師名	野呂 勇介	単位時間数	7.5/120	単位数	4
講義目標	一般目標 安心して快適な生活の場とは何か、また家庭生活の営みを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の生活、そして生活支援を理解できる。 ・ 居住環境についてのあり方を考えることができる。 				

回数	講義内容
1	安心して快適な生活の場づくり
2	他職種の役割と協働（居住環境）
3	家庭生活の理解
4	家庭生活の営み（食生活の基本知識）
5	家庭生活の営み（被服生活の基本知識）
講義方法 テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。	
講義で使用する機器・教材 iPad必須	
履修上の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 	
成績評価方法 レポートおよび期末試験	
教科書 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（中央法規出版）	
参考書 適宜指示を出す。	
予習復習のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んでおく。 ・ 配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。 	

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	生活支援技術Ⅲ (家事・調理)	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	12/80
講師名	野呂 勇介	単位時間数	18/120	単位数	4
講義目標	一般目標 家庭生活の中での家事、調理の必要性を理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。				
	到達目標 ・生活全般における家事の基礎知識についての理解ができる。 ・基本的な食材・調理の知識及び技術を身につけることができる。				
回数	講義内容				
1	オリエンテーション、家事の意義と目的				
2	家事の介護の基本(尊厳を支える介護の視点・自立を支える介護の視点)				
3	家事の基礎知識～調理①～				
4	家事の基礎知識～調理②～				
5	家事の基礎知識～調理③～				
6	家事の基礎知識～調理④～				
7	家事の基礎知識～洗濯①～				
8	家事の基礎知識～洗濯②～				
9	家事の基礎知識～掃除～				
10	家事の基礎知識～ごみ捨て～				
11	家事の基礎知識～衣類・寝具の衛生管理～				
12	家事の基礎知識～買い物～				
講義方法 テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 調理実習室を使用しての実技演習。					
講義で使用する機器・教材 iPad必須					
履修上の注意事項 ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・調理実習室では食材を扱うため、清潔に努める。身だしなみを整え実習に臨むこと。 ・調理実習室では刃物等を使用するため、細心の注意をはらうこと。 ・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。					
成績評価方法 レポートおよび期末試験					
教科書 生活支援技術Ⅱ（メヂカルフレンド社） 必要に応じて生活支援技術Ⅰ・Ⅱのテキストを使用する。 参考書 適宜指示を出す。					
予習復習のアドバイス ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	介護過程Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	野呂勇介	単位時間数	60	単位数	2
講義目標	一般目標 介護過程の基礎とプロセス、介護実践における介護過程の必要性が理解できる。 また、ケースのアセスメントにおける情報分析までを実践できる。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の考え方・意義・目的を学び、理解する。 ・ 介護を学ぶにあたって、介護過程の展開を理解し、利用者の自己実現を援助できる視点を養う。 ・ アセスメントの考え方を理解し、記録することができる。 ・ ICFを理解し、介護過程に反映させることができる。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	オリエンテーション		21	情報収集⑩	
2	介護過程の意義・目的		22	情報収集⑪	
3	展開のプロセス		23	情報収集⑫	
4	展開の基本視点		24	情報収集⑬	
5	生活支援における介護過程の必要性		25	情報収集⑭	
6	根拠に基づく介護過程の展開		26	情報収集⑮	
7	アセスメントとは①		27	情報収集⑯	
8	アセスメントとは②		28	情報収集⑰	
9	アセスメントとは③		29	情報収集まとめ①	
10	アセスメントとは④		30	情報収集まとめ②	
11	アセスメントとは⑤		31	介護実習Ⅰ-②フィードバック①	
12	情報収集①		32	介護実習Ⅰ-②フィードバック②	
13	情報収集②		33	介護実習Ⅰ-②フィードバック③	
14	情報収集③		34	介護実習Ⅰ-②フィードバック④	
15	情報収集④		35	分析方法①	
16	情報収集⑤		36	分析方法②	
17	情報収集⑥		37	分析方法③	
18	情報収集⑦		38	分析方法④	
19	情報収集⑧		39	分析方法⑤	
20	情報収集⑨		40	まとめ	

<p>講義方法</p> <p>テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 グループワークの実施</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>i P a d 必須</p>
<p>履修上の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・介護実習及び就業に際して直接的に関係する科目の為、欠席はしないこと。
<p>成績評価方法</p> <p>提出物にて評価（課題・レポート）</p>
<p>教科書</p> <p>介護過程（中央法規出版）</p> <p>参考書</p> <p>適宜指示</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストや関連文献を日常的に使用し、学習すること。 ・資料を多く使用する為、ファイリング等を行うこと。 ・介護実習、就業に直接関連する科目の為、日常的な学習が必要。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	介護過程Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	60
講師名	野呂 勇介	単位時間数	90	単位数	3
講義目標	一般目標 要介護者のアセスメント～ニーズの抽出についてICFを用いた展開を実践でき、計画策定を行える。また、モニタリング～評価の段階でICFを活用し、再アセスメントを行える。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアプランシートの活用ができる。 ・ アセスメント～ニーズの抽出においてICF生活モデルの概念を活用できる。 ・ 福祉的観点および医療的観点を統合した適切かつ現実的なケアプランの策定ができる。 ・ ICFおよび介護過程の展開を「もとにして」要介護者のQOL評価を考える機会とする。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	ICFと7つの視点に応じた「分析」		16	実施における留意点	
2	ICFと7つの視点に応じた「分析」		17	モニタリング/記録	
3	部分アセスメントの統合と整理		18	モニタリング/記録	
4	ICFを活用したニーズの抽出と優先順位検討		19	ICFを活用した評価	
5	ICFを活用したニーズの抽出と優先順位検討		20	ICFを活用した評価	
6	ICFを活用したニーズの抽出と優先順位検討		21	介護実習Ⅱ.1事例検討	
7	計画策定「目標と期間の設定」		22	介護実習Ⅱ.1事例検討	
8	計画策定「目標と期間の設定」		23	介護実習Ⅱ.1事例検討	
9	援助方法の設定		24	介護実習Ⅱ.1事例検討	
10	援助方法の設定		25	アセスメント～評価まとめ	
11	援助方法の設定		26	アセスメント～評価まとめ	
12	事例演習「アセスメント～援助方法」		27	介護実習Ⅱ.2事例検討	
13	事例演習「アセスメント～援助方法」		28	介護実習Ⅱ.2事例検討	
14	事例演習「アセスメント～援助方法」		29	介護実習Ⅱ.2事例検討	
15	事例演習「アセスメント～援助方法」		30	介護実習Ⅱ.2事例検討	

31	介護実習Ⅱ.2事例検討	46	自立に向けた介護過程とは
32	介護実習Ⅱ.2事例検討	47	介護情報の記録「方法」
33	介護実習Ⅱ.2事例検討	48	介護情報の記録「観察記録」
34	介護実習Ⅱ.2事例検討	49	介護情報の記録「観察記録」
35	介護実習Ⅱ.2事例検討	50	家族との情報共有
36	介護実習Ⅱ.2事例検討	51	家族との情報共有
37	グループ演習「事例作成」	52	今後の介護過程のあり方
38	グループ演習「事例作成」	53	今後の介護過程のあり方
39	グループ演習「事例検討」	54	介護実践における理論の重要性
40	グループ演習「事例検討」	55	Komi理論（総論）
41	グループ演習「事例検討」	56	Komi理論（総論）
42	グループ演習「事例検討」	57	Komiチャートによる介護実践と評価
43	グループ演習「検討結果発表」	58	Komiチャートによる介護実践と評価
44	グループ演習「検討結果発表」	59	Komiチャートによる介護実践と評価
45	自立に向けた介護過程とは	60	介護理論構築の必要性

講義方法

座学および演習・グループワーク

講義で使用する機器・教材

iPad・カンファレンスシート

履修上の注意事項

介護福祉士として核となる科目のため一切欠席しないこと。

成績評価方法

レポート・報告書・課題にて総合的に評価する。

教科書

介護過程（中央法規出版）

参考書

予習復習のアドバイス

介護実習Ⅱと連動した科目となり、学生個々の理解度に差が出やすいため、講義外時間に学内演習としてグループ学習等を確実にを行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	介護総合演習Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	60
講師名	野呂 勇介	単位時間数	90	単位数	3
講義目標	一般目標 介護実習に向けての心構えや、それに対する予備知識、動機付けなどの準備を行い、介護施設の概要や、利用者の生活に関して理解する。また、記録の方法や介護実習を行ってみたいの振り返りの重要性についても考え、理解する。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設の概要と利用者の生活像、介護福祉士の役割を理解する。 ・ 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を明確化・言語化できる。 ・ 介護実習Ⅰの実習施設の概要と利用者のアセスメントの理解ができ、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	介護実習の意義・目的	16	報告書作成と実習分析
2	介護実習の意義・目的	17	報告書作成と実習分析
3	介護実習の内容	18	報告書作成と実習分析
4	介護実習の内容	19	報告書作成と実習分析
5	実習要綱の説明	20	報告書作成と実習分析
6	早期見学型実習とは	21	生活支援体験型実習とは
7	早期見学型実習とは	22	生活支援体験型実習とは
8	早期見学実習対象事業所について	23	生活支援体験型実習とは
9	早期見学実習対象事業所について	24	生活支援体験型実習とは
10	早期見学実習対象事業所について	25	記録作成方法
11	目標設定	26	記録作成方法
12	実習記録作成方法	27	記録作成方法
13	実習記録作成方法	28	記録作成方法
14	実習記録作成方法	29	記録作成方法
15	報告書作成と実習分析	30	記録作成方法

回数	講義内容	回数	講義内容
31	担当ケース設定方法	46	帰校日（前半フィードバック）
32	担当ケース設定方法	47	報告書作成と実習分析
33	担当ケース設定方法	48	報告書作成と実習分析
34	担当ケース設定方法	49	報告書作成と実習分析
35	自己課題と事前学習	50	報告書作成と実習分析
36	自己課題と事前学習	51	報告書作成と実習分析
37	自己課題と事前学習	52	報告書作成と実習分析
38	自己課題と事前学習	53	報告書作成と実習分析
39	自己課題と事前学習	54	介護実習Ⅱへの課題検討
40	自己課題と事前学習	55	介護実習Ⅱへの課題検討
41	自己課題と事前学習	56	介護実習Ⅱへの課題検討
42	帰校日（前半フィードバック）	57	介護実習Ⅱへの課題検討
43	帰校日（前半フィードバック）	58	介護実習Ⅱへの課題検討
44	帰校日（前半フィードバック）	59	介護実習Ⅱへの課題検討
45	帰校日（前半フィードバック）	60	介護実習Ⅱへの課題検討

講義方法

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。
グループワークの実施。

講義で使用する機器・教材

i P a d 必須

履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・提出物・レポートは指定の方法で提出し、期限を厳守すること。（期限を過ぎた場合の受け取りは行わない）

成績評価方法

課題100%

教科書

介護過程（中央法規出版）

参考書

適宜指示

予習復習のアドバイス

・事前にテキストを読んでおく。配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。介護実習に直接反映する科目の為、介護過程の予習・復習も行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	介護総合演習Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	野呂 勇介	単位時間数	60	単位数	2
講義目標	一般目標 介護実習Ⅱの目標を理解し、明確な自己課題のもとに実習を展開することができる。また、実習展開の計画を立案でき、実践・振り返りからを行える。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の法的根拠をもとに介護福祉士の役割と職域、今後により方を考えることができる。 ・介護福祉士として明確な根拠に基づいた生活支援を行うことができる。 ・実習において自身の課題および目標を明瞭な文章で標記でき、実習内容に即した計画を立案できる。 ・実習からの振り返りに関して学習課題、修正すべきポイントを抽出し、就業までに完成した介護福祉士を目指す。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	介護実習Ⅰでの目標達成状況		21	介護過程展開確認・修正	
2	介護実習Ⅱの意義と目的・到達目標		22	介護過程展開確認・修正	
3	介護実習Ⅱ 具体的実習内容		23	介護過程展開確認・修正	
4	介護実習Ⅱ 具体的実習内容		24	介護計画立案確認・修正	
5	介護実習Ⅱ 記録レベルの向上		25	介護計画立案確認・修正	
6	介護実習Ⅱ 記録レベルの向上		26	介護計画立案確認・修正	
7	介護実習Ⅱ 記録レベルの向上		27	介護計画立案確認・修正	
8	実習計画作成と事前学習		28	介護計画立案確認・修正	
9	実習計画作成と事前学習		29	介護実習Ⅱ.2到達目標確認	
10	実習計画作成と事前学習		30	最終実習前計画立案	
11	実習計画作成と事前学習		31	介護計画実施状況確認・修正	
12	実習計画作成と事前学習		32	介護計画実施状況確認・修正	
13	実習計画作成と事前学習		33	介護計画実施状況確認・修正	
14	実習計画作成と事前学習		34	介護計画実施状況確認・修正	
15	実習計画作成と事前学習		35	介護計画実施状況確認・修正	
16	実習計画作成と事前学習		36	介護実習Ⅱ.2振り返り・報告書作成	
17	実習計画作成と事前学習		37	介護実習Ⅱ.2振り返り・報告書作成	
18	実習計画作成と事前学習		38	介護実習Ⅱ.2振り返り・報告書作成	
19	介護過程展開確認・修正		39	介護実習Ⅱ.2振り返り・報告書作成	
20	介護過程展開確認・修正		40	介護実習Ⅱ.2振り返り・報告書作成	

講義方法 座学および個人演習・グループ演習
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 介護実習の一環としての意識を持ち、一切欠席のないことが望まれる。
成績評価方法 レポート・報告書を総合的に評価する。
教科書 介護総合演習・介護実習（中央法規出版）
予習復習のアドバイス 介護過程と連動させての自己学習を必ず行うこと。 実習後の振り返りを確実にを行うこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	発達と老化の理解	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	木田 真千子	単位時間数	60	単位数	4
到達目標 人間の正常な成長発達や健康障害を学び将来対象となるを学び将来対象となる。 要支援高齢者や要介護高齢者に関する基礎的知識を習得する。					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	第1章人間の成長と発達の基礎知識		21	4章3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響	
2	1章1節 成長・発達の考え方		22	第5章 高齢者と健康	
3	1章2節 成長と発達の原則・法則		23	5章1節 健康長寿にむけての健康	
4	1章3節 成長・発達に影響する要因		24	5章2節 高齢者の症状・疾患の特徴	
5	2章 人間の発達段階と発達課題		25	5章2節 高齢者の症状・疾患の特徴	
6	2章1節 発達理論		26	5章2節 高齢者の症状・疾患の特徴	
7	2章2節 発達段階と発達課題		27	5章2節 高齢者の症状・疾患の特徴	
8	2章2節 発達段階と発達課題		28	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
9	2章3節 身体的機能の成長と発達		29	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
10	1章4節 心理的機能の発達		30	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
11	1章5節 社会的機能の発達		31	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
12	第3章 老年期の特徴と発達課題		32	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
13	3章1節 老年期の定義		33	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
14	3章2節 老化とは		34	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
15	3章3節 老年期の発達課題		35	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
16	3章4節 老年期をめぐる今日的課題		36	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
17	4章 老化に伴うところとからだの変化		37	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
18	第4章1節 老化に伴う身体的変化と生活への影響		38	第3章 高齢者多い疾患・症状と生活上の留意点	
19	第4章2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響		39	第5章4節 保健医療職との連携	
20	第4章2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響		40	第5章4節 保健医療職との連携	

<p>講義方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを基にした講義 ・グループワークおよび演習 ・必要に応じて「フィールドワークを行う。
<p>講義で使用する機器・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPad 必須
<p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講態度、期末試験、課題レポート
<p>教科書 発達と老化の理解（中央法規）</p> <p>参考書 適宜指示する。</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <p>「こころとからだのしくみ」を関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な発達段階に応じた介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	認知症の理解Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	木田 真千子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 認知症の人を取り巻く現状を把握する事はもちろん、ケアを行ううえで必要な医学的知識を学び、実践的な介護展開を行う能力を養う。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症とは何か、その疾患についてケアと社会資源に関連付けて考え、理解する事ができる。 ・ 医学的観点から認知症を理解し、根拠ある介護を展開する基礎を固める。 ・ 実践的な介護を展開するうえで必要な思考を学び、介護過程展開へとつなげる事が出来る。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	第1章 認知症の基礎知識	11	2章2節 生活障害の理解
2	1章1節 認知症とは何か	12	2章3節 B P S Dの理解
3	1章2節 脳のしくみ	13	2章4節 認知症の診断と重症度
4	1章2節 脳のしくみ	14	2章5節 認知症の原因疾患と症状・生活障害
5	1章3節 認知症の人の心理	15	2章6節 認知症の治療薬
6	1章3節 認知症の人の心理	16	2章7節 認知症の予防
7	③認知症の原因疾患	17	第3章 障害をかかえて生きていくことへの支援
8	第2章 認知症の症状・診断・治療・予防	18	3章1節 障害を取り巻く環境
9	2章1節 中核症状の理解	19	3章2節 認知症ケアの理念と視点
10	2章1節 中核症状の理解	20	3章3節 認知症当事者の視点からみえるもの

講義方法 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを基にした講義 ・グループワークおよび演習 ・必要に応じて「フィールドワークを行う。
講義で使用する機器・教材 <ul style="list-style-type: none"> ・iPad 必須
履修上の注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストやノート類、配布資料の整理 ・提出期限厳守-評価における減点対象
成績評価方法 レポート、期末試験
教科書 認知症の理解（中央法規）
参考書 適宜指示する。
予習復習のアドバイス 「こころとからだのしくみ」を関連付けた学習を行う事。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行う事。実践的な認知症介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	障害の理解Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	木田 真千子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 障害のある人の心理、身体機能に関する基礎知識を習得				
	到達目標 到達目標 ・ 障害の基礎理解として障害の基本理念、障害の概念、障害者福祉の基礎を学ぶ。 ・ 医学的側面からの基礎的知識の身体、精神、知的、発達障害を学ぶ。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念	11	2章6節 腎臓機能障害
2	1章1節 障害の概念	12	2章6節 膀胱・直腸機能障害
3	1章2節 障害者福祉の基本理念	13	2章6節 膀胱・直腸機能障害
4	1章3節 障害者福祉に関連する制度	14	2章6節 小腸機能障害
5	1章4節 障害者福祉制度と介護保険	15	2章6節 小腸機能障害
6	2章6節 心臓機能障害の基礎知識	16	2章6節 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害
7	2章6節 心臓機能障害の基礎知識	17	2章6節 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害
8	2章6節 呼吸器機能障害	18	2章6節 肝臓機能障害
9	2章6節 呼吸器機能障害	19	2章6節 肝臓機能障害
10	2章6節 腎臓機能障害	20	まとめ

講義方法

板書、テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。
各実習室を使用して実技演習を行う。

講義で使用する機器・教材

ipad必須。

成績評価方法

出席状況、授業態度、試験結果など。

教科書

中央法規・障害の理解

予習復習のアドバイス

事前にテキストを読み、予習した状態で授業に臨むこと。授業資料を事前に確認しておくこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	障害の理解Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	木田 真千子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 障害者福祉の理念と地域レベルでの支援体制および介護福祉士としての支援について習得する。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者総合支援法と地域での障害サポート体制について理解する。 ・ 行政、関係機関の役割と現状について理解する。 ・ 障害の受容および介護福祉士としての支援方法を理解する。 ・ 障害者をもつ家族の状況と家族へのケアについて理解する。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション/障害の理解Ⅰ復習	11	重症心身障害のある人の生活
2	2章) 聴覚障害・言語障害のある人の生活	12	5章) 障害のある人に対する介護
3	聴覚障害・言語障害のある人の生活	13	障害のある人に対する介護の基本的視点
4	重複障害のある人の生活	14	基本的視点に基づいた個別支援
5	3章) 障害のある人の生活Ⅱ	15	社会資源の利用と開発
6	肢体不自由のある人の生活	16	6章) 家族への支援
7	知的障害のある人の生活	17	7章) 連携と協働
8	精神障害のある人の生活	18	保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携
9	高次脳機能障害のある人の生活	19	地域におけるサポート体制
10	発達障害のある人の生活	20	まとめ

講義方法
座学、演習、板書、グループワーク
講義で使用する機器・教材
教科書、iPad、
履修上の注意事項
障害別生活支援技術に関連付けた学習を行うこと。
成績評価方法
期末試験
教科書
中央法規出版（障害の理解）
参考書
適時指示する。
予習復習のアドバイス
他科目との関連を持った自己学習を継続すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	1学年		
科目名	こころとからだのしくみⅠ (からだのしくみ)	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40/60
講師名	木田 真千子	単位時間数	60/90	単位数	6
講義目標	一般目標 介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる人間の感覚や基礎的な心理的事項、人体の形態や機能の基本的事項について理解できる。				
	到達目標 ・からだのしくみや動きを学び、機能低下した際日常生活に及ぼす影響をイメージし、説明できるようになる。 ・脳構造からみた心理およびこころのしくみを学習し、介護実践に応用できる能力を養う。また、介護福祉士として心理上の自己管理を行えるようになる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	2章 からだのしくみを理解する	20	身体の成り立ち（循環器）
2	2章1節 からだのしくみ	21	身体の成り立ち（消化器）
3	細胞・遺伝	22	身体の成り立ち（消化器）
4	からだの各部の名称	23	身体の成り立ち（消化器）
5	身体の成り立ち（自律神経系・中枢神経・末梢神経）	24	身体の成り立ち（消化器）
6	身体の成り立ち（自律神経系・中枢神経・末梢神経）	25	身体の成り立ち（泌尿器）
7	身体の成り立ち（自律神経系・中枢神経・末梢神経）	26	身体の成り立ち（泌尿器）
8	身体の成り立ち（自律神経系・中枢神経・末梢神経）	27	身体の成り立ち（泌尿器）
9	身体の成り立ち（感覚器）	28	身体の成り立ち（泌尿器）
10	身体の成り立ち（感覚器）	29	身体の成り立ち（骨・筋肉）
11	身体の成り立ち（感覚器）	30	身体の成り立ち（骨・筋肉）
12	身体の成り立ち（感覚器）	31	身体の成り立ち（骨・関節の動き）
13	身体の成り立ち（呼吸器）	32	身体の成り立ち（骨・関節の動き）
14	身体の成り立ち（呼吸器）	33	身体の成り立ち（筋肉の動き）
15	身体の成り立ち（呼吸器）	34	身体の成り立ち（筋肉の動き）
16	身体の成り立ち（呼吸器）	35	身体の成り立ち（生殖器・内分泌）
17	身体の成り立ち（循環器）	36	身体の成り立ち（生殖器・内分泌）
18	身体の成り立ち（循環器）	37	血液・体液・リンパ
19	身体の成り立ち（循環器）	38	2章1節 関連する役割、および薬の知識
20	身体の成り立ち（循環器）	39	2章1節 関連する役割、および薬の知識

<p>講義方法</p> <p>テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 各実習室を使用して実技演習を行う。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>iPad必須</p>
<p>履修上の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。 ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。 ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。 ・提出物の提出期限に注意すること。
<p>成績評価方法</p> <p>提出物、授業態度、レポートおよび期末試験</p>
<p>教科書</p> <p>こころとからだのしくみ（中央法規）</p> <p>参考書</p> <p>適宜持参</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを読んでおく。 ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	こころとからだのしくみⅡ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	木田 真千子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標 介護福祉士としての各A D L支援において根拠ある援助を行うための知識を習得する。				
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行為としての介護に留まらず、疾病からの理解をする。 ・ 他職種協働において絶対的に必要な医療面からのアセスメントが行える。 ・ 介護福祉士の特性を理解し、日常生活を俯瞰的に観ることができる。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	5章) 食事に関連したしくみ	11	第2節 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
2	第1節 食事のしくみ	12	第3節 変化の気づきと対応
3	第2節 心身の機能低下が食事に及ぼす影響	13	第9章 死にゆく人に関連したしくみ
4	第3節 変化の気づきと対応	14	第1節 「死」を理解する
5	第6章 入浴・清潔保持に関連したしくみ	15	第2節 終末期から「死」までの変化と特徴
6	第1節 入浴・清潔保持のしくみ	16	第3節 「死」に対するこころの理解
7	第2節 心身の機能低下が入浴に及ぼす影響	17	第4節 医療職との連携ポイント
8	第3節 変化の気づきと対応	18	まとめ
9	第8章 睡眠に関連したしくみ	19	まとめ
10	第1節 睡眠のしくみ	20	まとめ

講義方法 iPad/板書/口頭にて行う。
講義で使用する機器・教材 iPad必須
履修上の注意事項 介護実習・介護過程・生活支援技術関連科目のため欠席のないことが望ましい。
成績評価方法 期末試験
教科書 ころとからだのしくみ（中央法規）
参考書 人体解剖図（成美堂出版）
予習復習のアドバイス 必ず復習を行い、知識を確実なものとし、限り期末試験の合格は困難になるため、自己学習を欠かさないこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	医療的ケア	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	木田 真千子	単位時間数	60	単位数	4
講義目標	一般目標				
	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全、適切に実施できるよう必要な知識、技術を修得する。				
講義目標	到達目標				
	(1) 医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について理解する。 (2) 医療的ケアに関する法制度や倫理を理解する。 (3) 感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人間と社会	21	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
2	人間と社会	22	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
3	保健医療制度とチーム医療	23	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
4	保健医療制度とチーム医療	24	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
5	安全な療養生活	25	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
6	安全な療養生活	26	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
7	安全な療養生活	27	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
8	清潔保持と感染予防	28	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
9	清潔保持と感染予防	29	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
10	健康状態の把握	30	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
11	健康状態の把握	31	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
12	健康状態の把握	32	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
13	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	33	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
14	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	34	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
15	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	35	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
16	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	36	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
17	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	37	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
18	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	38	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
19	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	39	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説
20	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	40	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説

講義方法

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。
実習室を利用して実技演習を行う。

講義で使用する機器・教材

i p a d 必須。演習用人体モデル

履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
- ・提出物の提出期限に注意すること。

成績評価方法

提出物、授業態度、期末試験

教科書

医療的ケア(中央法規)

適時持参

予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	介護福祉科	学 年	2学年		
科目名	医療的ケア（演習）	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	木田 真千子	単位時間数	45	単位数	2
講義目標	一般目標 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全、適切に実施できるよう必要な知識、技術を修得する。				
	到達目標 (1) 介護福祉士が行える領域の理解ができ安全に喀痰吸引、経管栄養が実施できる。 (2) 標準予防策を確実に実施できる。 (3) 救急蘇生法について理解し実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	口腔内の喀痰吸引	16	気管カニューレ内部の喀痰吸引
2	口腔内の喀痰吸引	17	気管カニューレ内部の喀痰吸引
3	口腔内の喀痰吸引	18	胃瘻又は腸瘻による経管栄養
4	口腔内の喀痰吸引	19	胃瘻又は腸瘻による経管栄養
5	口腔内の喀痰吸引	20	胃瘻又は腸瘻による経管栄養
6	鼻腔内の喀痰吸引	21	胃瘻又は腸瘻による経管栄養
7	鼻腔内の喀痰吸引	22	胃瘻又は腸瘻による経管栄養
8	鼻腔内の喀痰吸引	23	胃瘻又は腸瘻による経管栄養
9	鼻腔内の喀痰吸引	24	経鼻経管栄養
10	鼻腔内の喀痰吸引	25	経鼻経管栄養
11	気管カニューレ内部の喀痰吸引	26	経鼻経管栄養
12	気管カニューレ内部の喀痰吸引	27	経鼻経管栄養
13	気管カニューレ内部の喀痰吸引	28	経鼻経管栄養
14	気管カニューレ内部の喀痰吸引	29	救急蘇生法
15	気管カニューレ内部の喀痰吸引	30	救急蘇生法

講義方法

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。
実習室を利用して実技演習を行う。

講義で使用する機器・教材

i p a d 必須。演習用人体モデル

履修上の注意事項

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。
- ・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
- ・提出物の提出期限に注意すること。

成績評価方法

提出物、授業態度、期末試験

教科書

医療的ケア（中央法規）

参考書

適時持参

予習復習のアドバイス

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。